

# 宮城県林業普及活動情報

2023. 5月号 No. 180

## もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2 ~ 8
○こしあぶらの出荷制限全面解除に向けた取組	(大河原地方振興事務所)
○特用林産物関係者向けインボイス制度説明会	(大河原地方振興事務所)
○森林整備と木材利用の推進に向けて	(仙台地方振興事務所)
○ハタケシメジ栽培講習会について	(北部地方振興事務所)
○森林経営管理制度の推進～市町村モデル支援(伴走型)～	(北部地方振興事務所)
○苔玉・テラリウム教室への支援	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○放射性物質低減化実証事業の実施	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○間伐事業に関する計画作成支援	(東部地方振興事務所)
○海岸林に親しむイベントの開催	(東部地方振興事務所)
○林務担当者会議の開催	(東部地方振興事務所)
○特用林産功労者表彰について	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○「市民参加の新たな森づくり」開催について	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○登米市の水とワサビ体験学習支援	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○気仙沼市産メンマづくり	(気仙沼地方振興事務所)
○第60回林業教室を開講	(林業技術総合センター)
○令和5年度森林施業プランナー養成研修を開催	(林業技術総合センター)
○スマート林業・森林調査講座【初級・ドローン】の開催	(林業技術総合センター)

## こしあぶらの出荷制限全面解除に向けた取組

大河原地方振興事務所

【17日(水)】

現在、出荷制限がかかっている七ヶ宿町の「こしあぶら」について、放射性物質濃度の傾向を把握するため、検体を採取し、モニタリング検査を行いました。

引き続き、生産者や関係機関と連携しながら、モニタリング調査等を通じてこしあぶらの出荷制限解除に向けた取組を支援してまいります。



【こしあぶらの採取の様子】

## 特用林産物関係者向けインボイス制度説明会

大河原地方振興事務所

【30日(木)】

林野庁が開催するインボイス制度説明会のサテライト会場を設置し、情報共有を図ると共に、参加した特用林産物の生産者の置かれている現状や今後の対応の予定について打合せを行いました。

生産者は、それぞれ、直売所等からの説明を聞いているうえでの参加でしたが、制度に対して理解を深めることができたとのことでした。対応については今後検討するとのことであり、引き続き支援していきます。



【サテライト会場の様子】

## 森林整備と木材利用の推進に向けて

仙台地方振興事務所

【10日(水)】

仙台地域は森林組合をはじめ多くの民間事業者が森林整備の担い手となっています。また、生産森林組合や愛林公益会、財産区などの林業経営団体も多く組織されている地域です。

森林整備を進めていくにあたり、これらの団体や市町村を対象に林業振興関係業務の打合せ会を開催し、情報共有を図りました。

打合せでは今年度の事業内容の変更点について確認し、間伐および伐採再造林の一貫作業の推進に向けた取組を周知しました。

また市町村に対しては改正された木材利用促進法に基づく市町村方針の改定について説明を行ったところです。



【市町村、林業事業者、森林所有者が一堂に会しました】

今後も引き続き、情報交換を密にして、連携を深めながら森林整備や木材利用を進めて参ります。

## ハタケシメジ栽培講習会について

北部地方振興事務所

【31日(水)】

管内の直売所「あ・ら・伊達な道の駅（大崎市岩出山）」から生産者を対象とした農産物講習会の要望があり、農業振興部と合同で開催しました。

ハタケシメジの冬場にかけての栽培で「温床キット」を使用する方法について、説明・実演し、資材や電気代に関する質問が寄せられました。

電気代が高騰している中、今後の情勢も不透明な状況下にあります。「まずは、栽培してノウハウを得てみましょう」との精神で講習会を締めくくりました。

直売所では、野菜、きのこ及び山菜の通年販売に向け準備を進めているところであり、ハタケシメジ簡易施設栽培は、比較的労力を要しないことから、幅広い生産者の確保とともに生産基盤構築に向け今後も支援していきます。



【上：ハタケシメジについて説明、  
下：簡易施設栽培の実演】

## 森林経営管理制度の推進 ～市町村モデル支援（伴走型）～

北部地方振興事務所

【10日(水)】

令和4年度に引き続き、市町の事業により森林整備を進めるために、色麻町、加美町それぞれと、意向調査後の集積計画作成に向けた打合せを行いました。

両町とも、今後、集積計画（案）を持って該当する森林所有者への説明を行い、作成した集積計画の同意を得た上で、森林整備事業を発注する方針でそれぞれ作業を進めることとなりました。



【町との打合せの様子】

## 苔玉・テラリウム教室への支援

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【20日(土)、27日(土)】

産地化を目指している「くりはらの苔」の魅力を発信するため、これまでも緑化関連のイベント等に際して苔テラリウム教室等を支援してきましたが、栗原市栗駒文字地区で開催された「藍フェア2023」においても、苔玉及びテラリウム教室が企画されたことから、作品製作を支援しました。

また仙台市青葉山公園を会場に開催された「全国都市緑化仙台フェア」においては、県森連ブースにおいて栗駒高原森林組合が苔テラリウム・苔玉のワークショップを出店したことからスタッフとして支援を行いました。

一方、会場内に移設された茶室「残月亭」の苔庭に「くりはらの苔」を使用いただいたことから、管理者の了解をいただき、そのPRのための標柱を設置しました。

いずれのイベントとも、当日の来場者を対象として参加受付を行いました。用意した資材はほぼ完売するなど、苔に対する潜在的な関心の高さを実感することとなりました。

そんな中、昨年までは「苔ふれあいフェア」として開催してきたイベントを、今年は「全国苔フェスティバル」として4年ぶりに開催するをむくコンテスト」、1月には「苔だ決定したほか、8月には「キッズけの写真展」及び「苔キャラクターぬりえ展」の開催を予定しているなど、苔ファンの年齢層を広げながら「苔の地位を上げる」イベント等の企画により、苔ビジネスを栗原地域の新たな産業へと育てて行くこととしています。



【全国都市緑化仙台フェアでのワークショップ】



【残月亭に設置した「くりはらの苔」の標柱】

## 放射性物質低減化実証事業の実施

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【17日(水)】

栗原市産たけのこで出荷制限が続く一部地域（栗駒、金成、鶯沢、花山）において、竹林の放射性物質低減化を行い、早期の出荷制限解除に資するため、これまで、土壌採取やカリウム散布、竹林の伐竹作業等を行い、放射性物質低減化の状況を調査してきました。

当日は、たけのこの放射性物質濃度の推移を調査するため、検体を採取しました。検査の結果、依然、高い値の検体も検出されますが、引き続き調査を継続していきます。



【たけのこの採取状況】

## 間伐事業に関する計画作成支援

東部地方振興事務所

【11日(木)】

今年度の間伐補助事業を行う事業主体からの要請があり、事業計画の作成支援を行いました。打合せでは、当該補助事業の要領等を確認し、林分の状況や搬出作業路の線形など、施工に際しての留意点などを検討し、実施計画に反映してもらうことになりました。

また、事務処理手順などを説明し、計画承認後は円滑に事業実施をしてもらうよう、具体的なスケジュールの管理をお願いしました。



【間伐計画作成打合せの状況】

## 海岸林に親しむイベントの開催

東部地方振興事務所

【19日(金)】

東松島市大曲地区の県有防災林を、地域の住民の皆さんに、一層身近に感じてもらう、末永く育てていただくことを目的に、地域団体とともに海岸林に親しむイベントを共催しました（参加総数62名）。

イベントでは、マツ植栽地の保育作業（下刈）と海岸林周辺のウォーキングを体験してもらい、海岸林の環境保全機能や保育の必要性を実感してもらいました。今後も地域の皆さんの要望を踏まえ、住民参加イベントを継続して開催、支援する予定です。



【体験（下刈）の状況】

## 林務担当者会議の開催

東部地方振興事務所

【25日(木)】

管内市町及び森林組合の業務担当者を参集し、令和5年度の森林整備等の施策の業務内容について、各担当者から解説を行いました。特に事務取扱いの変更点について説明を行うとともに、再造林や木材利用の推進などに向けた協力をお願いしました。

また、引き続き、市町とともに翌月に実施する病害虫防除（空中散布業務）の留意点についても打合せを行うことで、適切な森林の保全へ向けた担当者との連携強化を図ることができました。



【意見交換の状況】

## 特用林産功労者表彰について

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【26日(金)】

登米市迫町で永年にわたり原木しいたけを施設栽培している高橋龍一氏が日本特用林産振興会の功労者表彰を受賞され、東京で小淵優子会長から表彰状が授与されました。品質の向上と安定的な収量確保等に向けて精力的に取り組み、地域の栽培技術向上にも大きく貢献したことが認められました。今回の受賞により、今後、さらなる栽培技術の研鑽としいたけをはじめとした特用林産の振興につながることを期待します。



【表彰状授与】

## 「市民参加の新たな森づくり」開催について

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【28日(日)】

登米市と共催で実施している植樹イベント「市民参加の新たな森づくり」を開催しました。122名の市民等が参加し、0.36haの市有林に720本のコナラを植栽しました。参加者は、津山町森林組合職員から植栽指導を受けた後、鍬を用いて1人約5本のコナラを植栽しました。植林作業を体験し、森林の育成について理解を深めることができました。当日は、親子の参加者も多く、木育についても効果的に実施できたイベントとなりました。



【植樹の様子】

## 登米市の水とワサビ体験学習支援

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【24日(水)】

津山町林業研究会が林業後継者育成を目的として行った林業体験学習（ワサビ栽培体験）を支援しました。ワサビ栽培に関連し、森林と水の話と題して、針葉樹と広葉樹の違いや間伐の必要性、森の水源涵養機能について説明しました。

生産者による栽培施設や栽培方法の説明、小学生からの質問への回答とともに、試食により特用林産物（ワサビ）について、詳しく知ってもらうことができました。また、登米市の上水の流れと、それらを育む森林との関係性などについて理解を深め、林業を身近に感じる体験を提供できました。



【放射性物質対策説明の様子】

## 気仙沼市産メンマづくり

気仙沼地方振興事務所

【30日(火)】

令和元年度から気仙沼市内の竹林所有者と協力し取り組んでいる幼竹を用いたメンマ作りについて、メンマ作りに興味を持った方などに幼竹の採取、下ごしらえ、塩漬け作業までを体験してもらいました。

今年度は、南三陸町の竹林所有者や、石巻市で竹資源の活用を検討している事業者も参加するなど、生産者のネットワークが拡大しています。また、作業実施後にはメンマ作りの課題や、竹資源の活用方法についての意見交換会を実施するなど生産者間で交流を図りました。

昨年度は乾燥工程で失敗してしまったことから、今年度こそは気仙沼市産メンマを無事完成させ、試食会の実施や、生産者の更なる拡大を目指して活動してまいります。



【作業の様子】

## 第60回林業教室を開講

林業技術総合センター

【19日(金)】

1,570名の林業後継者を輩出してきた標記教室が、7名の受講生と県地方公所関係者の参加を得て開講しました。

初回の講座は、森林・林業用語の基礎知識とみやぎの森林・林業です。森林・林業用語の基礎知識の单元において、「森林・林業用語の基礎知識」(宮城県林業振興協会が支援)及び「宮城県民有林材積表及び林分収穫表」並びに、みやぎの森林・林業の单元において「みやぎの森林・林業」及び「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ開校パンフレット」を配布し、理解の助けとしました。最後に育種施設を見学し、研究者が当該事業について説明を行いました。

次回の講座はきのこ栽培の他、地方公所において森林測量・森林調査・間伐等が任意に実施される予定です。



【講義の様様】

## 令和5年度森林施業プランナー養成研修を開催

林業技術総合センター

【25日(木)】

2名の参加者を得て、標記研修の一環である集合研修を当所で開催しました。

スライドを用い、森林施業プランナー協会が刊行するテキストの233頁まで解説し、模擬試験を実施したところ、令和4年度一次試験受験者得点分布表の最上位グループに入ることができ、講師冥利に尽きました。

本県からより多くの森林施業プランナーが輩出することを祈念します。



【講義の様様】

## スマート林業・森林調査講座【初級・ドローン】の開催

林業技術総合センター

【30日(火)、31日(水)】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジの主催により当所にてスマート林業・森林調査講座

【初級・ドローン】が開催されました。株式会社ドローン・サポート制野代表取締役を講師にお招きし、「ドローン機体・航空法・飛行に関する注意事項等」に関する講義や操作実演、ドローンによる操作練習を実施されました。

参加者のほとんどが操作未経験者でしたが、法令関係の知識や基礎操作技術について、楽しみながら学んでいる様子が伺えました。



【操作練習】